事　業　報　告

令和 5 年度はアスロンが改装後、指定管理が他社となり契約金額の減額が想定された中、令和 6 年１月１日起きました能登半島地震の影響で、建物倒壊や水道、下水道などインフラが破壊されました。当センターも多くの就業先が失われ、それに伴い実績も下落しました。本年度のセンター事業実績は、会員数が 1,014 人、受託事業契約額が 286,083,761 円、派遣事業は 33,958,344 円となりました。受託事業、派遣事業の合計は前年比約 12%の減となりました。

雇用安定法改正により、企業の 65 歳までの雇用義務や 70 歳までの雇用が努力義務となり、働く環境も変わってきており、60 歳代の会員確保が難しくなってきています。また、10 月に消費税のインボイス制度が始まりました。会員の皆様に新たな負担が発生しないように、また諸物価高騰も続いていることから、発注者の皆様にご負担をおかけしますが事務手数料を引上げさせて頂きました。センターの事業は、震災前の就業の７割程度が復旧しましたが、和倉温泉旅館など復興に長期間見込まれることもあり、高齢者の就業先確保が重要な課題となっております。

また、高齢者の社会参加の受け皿としての機能を果たすため、社会参加を希望する高齢者にサークル活動やボランティア作業の実施、技能・知識取得講習会及び会員の互助活動を推進しております。

以下、事業内容の詳細については、次のとおり報告いたします。

１．　事業実績

（受託事業・派遣事業）

	区分	令和５年度	令和４年度	増　減
受 託 件 数	受託事業	3,518 件	5,671 件	2,153 減
	派遣事業	28 件	28 件	増減なし
就業延人員	受託事業	58,595 人日	67,814 人日	9,219 人日減
	派遣事業	6,330 人日	6,466 人日	136 人日減
契 約 金 額	受託事業	286,083,761 円	327,201,803 円	41,118,042 円減
	派遣事業	33,958,344 円	36,986,649 円	3,028,305 円減
会　員　数		1,014 人	1,010 人	4 人増
年間就業率		60.9%	60.8%	0.1 ポイント増

２．会員状況

（1）会員数　人　　　　　　　　　　R6.3.31 現在（単位：人）

	全会員数	本　所	鹿北支所
男　性	478	329	149
女　性	536	411	125
合　計	1,014	740	274

（2）会員の年齢別構成

	総　数	60 歳未満	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80 歳以上	平均年齢
男性	478	3	15	67	135	148	110	75.5
女性	536	1	11	69	160	198	97	75.5
合計	1,104	4	26	136	295	346	207	75.5
比率	100.0%	0.4%	2.6%	13.4%	29.1%	34.1%	20.4%	

最高年齢　男性 92 歳　　　女性 96 歳

３．事業実施報告

会員の運営参画による「自主・自立・共働・共助」を基本として、専門部会（理事及び地区班長、会員）による事業活動を展開してまいりました。

以下、専門部会・委員会の活動結果を報告いたします。

(1) 技能取得･向上講習会の推進(能力開発部会)

① 石川県シルバー人材センター連合会が主催の講習

高齢者活躍人材育成事業

・剪定スタッフ講習　17名　・クリーンスタッフ講習（中能登町SC同時開催） 14名

センター支援講習

・剪定講習　6名　・刈払機取扱作業者安全衛生教育　12名

② 七尾市シルバー人材センターが主催の研修、講習

4月 スマートフォン講習　5名　5月 庭木剪定講習　7名

6月 スマートフォン講習　6名　7月 網戸張り講習　17名

9月デジタル支援員養成講座　13名　12月 切り絵　24名・クリスマスポット　8名

(2) 普及啓発活動の推進（普及啓発部会）

① 会員宛に「シルバー便り」を毎月発行し、各種講習や行事等及び求人情報を記載し、事務局と会員との連絡を密にした。

② センター事業がより一層理解されるよう、地域情報紙「こみみかわら版」で年３回センター事業などを紹介し普及啓発に努めた。

③ デジタル化の推進として、会員アプリ、Smile to Smile（スマスマ）の利用拡大。広報活動として、ホームページ、Facebook（フェイスブック）、インスタグラムの活用を市民、会員に勧めた。

④ 普及啓発用パンフレット等を機会あるごとに配布し普及啓発に努めた。

⑤ 普及啓発活動の一環として、ボランティア清掃作業を山の寺寺院群のウォーキングを兼ねて実施し普及啓発に努めた。参加者は計23名。

⑥ センター独自の新年カレンダー（400部）を作成し、市内事業所やコミュニティセンター、一般家庭等に配布し、普及啓発及び就業拡大に努めた。

⑦ 新聞等あらゆる機会を通じて事業内容や活動状況を掲載依頼した。

⑧ 七尾市広報の有料枠を年間通して購入し、事業内容やイベントなど毎月掲載した。

⑨ 普及啓発と就業拡大の一環として「ふれあい市」を毎月第二日曜日に開催し、不用品やリサイクル品、野菜等農産物の販売や会員手作り品を展示・販売した。

⑩ 毎週木曜日ラジオななお「もしもし探検隊」にゲスト出演し広報活動を行った。

(3) 会員確保の推進（会員拡大部会）

① シルバー便り等で会員１人が１人紹介を推進する「口コミ」運動を実施した。また会員１人紹介で５００円の品物贈呈する制度を利用し、会員確保拡大に努めた。
（会員の紹介による入会者34名）

② 請負、派遣を希望する方を中心に会員確保した。またリサイクル事業や不用品処分に就業する会員及び委託販売（農産物、手作り品等）希望者の拡大、そしてサークルや旅行といった仲間づくりを希望する会員拡大に努めた。

③ ふれあいの集いで相談員配置して入会促進に努めた。

④ 未入会員に入会を勧める技能講習や就業体験（高齢者活躍人材育成事業）より入会を勧めた。

(4) 就業機会の確保､拡大の推進（就業開拓部会）

① 七尾市広報枠を毎月利用し、仕事受注依頼を掲載し就業拡大に努めた。

② 過去３年利用（剪定・除草・草刈）された方へ往復ハガキでの注文取りを行い、成果を得た。
2,290件送付

③ 会員の仕事紹介１件で200円の品物を贈呈する制度（就業紹介制度）を活発化し、就業の拡大に努めた。（就業紹介27件）
④ 一般家庭の不用品処分やリサイクル品回収の事業拡大のため、ゴミカレンダーやゴミ分別冊子にリサイクル事業を掲載し仕事の開拓拡大に努めた。
⑤ 発注者からの求人情報を毎月のシルバー便りに掲載し、就業の拡大に努めた。
⑥ ホームページによる仕事の紹介や「仕事申込フォーム」での就業拡大に努めた。
⑦ 空き家管理をホームページに掲載し、報告書作成などを市外利用者に案内した。

(5) 安全就業対策の推進（安全・適正就業委員会）

①安全講習会の実施
安全意識の向上のため、安全運転講習会を実施した。
② 作業用具の確認や安全用具の点検整備及び補充に努めた。ポイズンリムーバー、蜂刺され防護ネットを購入し、蜂刺され対策に努めた。
③ 飛び石事故対策として、エアークッションを使用し事故の防止に努めた。
④ 就業事故多発につき、事故防止打合せ会や職群班会議を開催し、就業事故の当事者を交えて意見交換を行った。
⑤ 労働者派遣の運転業務に携わる会員を対象に県シ連主催の運転技能講習を行った。
⑥ 会員の就業現地へのパトロールを実施した。
⑦ 健康管理や安全意識の向上についてシルバー便り等を通じて啓蒙した。
⑧ 運転派遣会員に健康診断料500円の助成を行った。

(6) 独自事業（リサイクル）の推進

アンテナショップ（リボン店、看板婆、鹿北店、ゆずりあい館）でリサイクル品販売や委託販売、喫茶、軽食等の独自事業を行った。また、旧御祓中学校の体育館を、門松作業やリサイクル家具倉庫として利用した。能登半島地震の影響でリボン店、看板婆の２店舗は震災以降、閉店することとなった。

毎月第二日曜を「ふれあい市」とし、ワークパル七尾でリサイクル品や野菜等の販売をした。
また、こだわり味噌の製作販売をした。
正月用品（しめ縄、輪飾り、ほうらい）や玄関用門松の製作販売を行った。
事業実績がショップ関連、門松等で17,014,920円、就業延人員8,589人日となった。

(7) 高齢者活用・現役世代サポート事業と基盤拡大事業の推進

サポート係を雇用し、人手不足が懸念される分野の解消に、シルバー人材センター会員が就業機会を得られるよう就業ニーズに応じた民間企業、一般家庭の就業機会の掘り起しに努めた。

(8) 七尾市勤労者総合福祉センターの運営管理

① 七尾市より無償貸付の七尾市勤労者総合福祉センター（愛称：ワークパル七尾）の運営管理は、新型コロナウイルス感染症の収束により利用者は回復してきており、利用者件数は783件で利用者数は21,824人となった。施設の利用料収入を施設の維持費に充当している。
② 会員の「学び・集いの場」として、定時総会、各種講習会場、サークル、ゆずりあい市の会場として利用した。

(9) 役職員等の研修の推進

理事会を毎月開催し、シルバー事業の運営について積極的に審議した。
職員の知識・能力向上のため職員の研修会、ＷＥＢ会議等に参加させた。